

インド国ベンガル湾岸湿地 (バフダ入江およびルシクリヤ河口) における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発

活動地域  インド

ワタリガニ卵放流
推計数 **2億8,050万 匹**

ごみ収集 **18 トン**

今年度計画の達成度 **100 %**

目標達成度 **100 %**

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発



抱卵カニ保護の様子 (クラブバンク)

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

新型コロナウイルス禍の移動制限、異なる文化・言語を背景に、住民同士や住民と外部機関との意思疎通が難しい状況であった。

■ 工夫した点

湿地の賢明な利用を促進するために住民参加型の活動を多く取り入れるとともに、政府の支援も呼びかけ環境活動を活性化させた。

課題

対象湿地で見られる乱獲やごみ投棄、気候変動による海洋生物への影響と生活困窮が危惧されている。住民の環境意識は乏しく、地域社会の環境適応・回避能力は脆弱である。

目標

ベンガル湾岸湿地の自然環境を再生し、そこで生活する人々が湿地を賢明に利用するために、クラブバンクの導入とプラスチックフリーエリアを創出する。

活動内容と成果

- クラブバンクを運営し、推計2億8,050万匹のワタリガニ種苗をベンガル湾に放流
- マングローブ補植による緑化維持
- 住民グループ主導の清掃活動を実施、計18トンのごみを収集
- 女性自助集団を中心とした苗木生産やアロマ油用の花摘みなどの代替生計手段の支援
- 参加型エコゲーム、ニュースレター (計2巻4,000部)、クラブバンクのポスター (2,000部)、環境ラリー活動、先進地視察、環境エッセイや絵画コンテスト等を通じて環境普及啓発



環境啓発エコゲームの様子



プラスチックフリーエリア創出の活動

全助成期間の活動を振り返って

クラブバンクを導入し、漁業者の環境意識向上やカニ漁獲量が増加した。また、他地域からの活動視察を受け入れるなど、本取組みは注目されている。漁業者は資源収奪的な漁具使用の見直しを行い、自らの手で焼却処分したというエビデンスも得られている。新型コロナウイルス禍でも住民主導で定期的にごみ収集を行い、プラスチックフリーエリアの取組みを目指すなど、全助成期間の活動を通じて一定の成果が得られたと自負している。

502/2 Mallick Complex, P.O.-Khandagiri,
Bhubaneswar-751030, Dist-Khurda, Odisha, India
HP : <http://www.pallishree.org/>



今後の展望

環境親和的なビジネスモデルの確立、清掃活動の普及、そして住民の環境意識向上及び主体的な参加を促す本事業活動によって、対象の地元住民は本事業に対する主体者意識と責任感を持ち助成終了後も活動が継続されることが期待される。本事業で目指した湿地再生と経済活性の好循環を生み出す優良モデルを周辺村々に広めていく活動を行っていきたい。